

令和元年度 中期学校経営方針に基づく学校評価「自己評価」

A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分				評価				考察	コメント
小中一貫教育の取組				A	B	C	D		
六つ川中		ブロック：六つ川中学校・六つ川小学校・六つ川台小学校・六つ川西小学校							MBCでは毎回同じ話になっていた。MBCの協議の内容が不明確なため9年間を見据えた育てたい子どもの力の共通理解が必要。MBCの中で様々な実践や教材を参考にし授業改善できた。
9年間で育てる子ども像		六つ川中学校が掲げている「自立のための基礎力」を本校でも6年間の中で育てていきたい。							
自校の具体的取組		①学習活動、学校行事、特別活動など、様々な機会をとらえて、子どもたちが自ら考えて行動できるよう支援していく。 ②確かな学力を育成していくために、ブロック内（MBC）で課題を共有して、指導方法の改善を常に図っていく。		1	15	0	0		
重点取組分野		取組目標	具体的取組	A	B	C	D		コメント
学びの質の向上		幅広い知識を身に付けるとともに、学んだことを基に、「柔軟に思考したり判断したり表現したりする力」を育てる。	①重点研究において「自らかかわり 共に育つ 六つ西の子」をテーマにかかげ、授業研究を通して、学校教育目標の具現化を図った。 ②学習の「六つ西スタンダード」を策定し、全学年共通した学習規律を確立した。 ③クラス間で担当教科を決め、他のクラスの授業を行った。	3	12	1	0	スタンダードの定義を明確にする。研究の中でスタンダードを作っていくのか要検討。教科担任については学年間で取り組みに差がある。	初任研もあり、ベテランの先生の授業から学ぶことができた。重点研ではクラスを交換して授業した。六つ西スタンダードとはどんな内容のものなのかを明確にする。③について何のために行うのか共通理解が必要。スタンダードを読み込み、どのクラスも同じルールで指導する必要がある。
担当	重点研究・学力向上			1	11	4	0		
豊かな心		互いに協力し合う活動を通して、相手の立場や気持ちを思いやる心や態度を育てるとともに、自己肯定感を高めて自分を大切にすることを育てる。	①集団活動・集団宿泊活動を通して、自らを律する心、共存の精神を身に付けた。 ②「キラキラ活動」（たて割り活動）を通して、異学年同士のつながりを深めた。 ③音楽活動、文化芸術体験の場を通して、豊かな感性を身に付けた。	3	13	0	0	校内で芸術鑑賞会を開催することを検討	ミニコンサート・特音など音楽にかかわる機会が多い。宿泊体験学習でクラスや学年の集団意識を高めることができた。文化芸術体験の機会が全校であればいいと思う。
担当	人権・児童指導			4	11	1	0		
健やかな体		心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身につけるとともに、自他の生命を大切にできるようにする。	①体カアップ活動、休み時間の運動遊びを通して、体力向上を目指した。 ②体育の授業改善を行い、主体的に学ぶ活動を通して、運動の楽しさを実感させた。 ③栄養士、家庭、校医と連携して、食育、歯科保健教育の充実を図った。	5	10	1	0		体力アップの充実を図ったが道半ばと感じる。
担当	健康安全			3	12	1	0		
児童指導		きまりを守り、友達と協力して学校生活を送ろうとする意識を高める。	①あいさつのできる児童の育成をめざし、特に登下校時、交通ボランティアの方へのあいさつを徹底した。 ②いじめの組織的対応の確立を目指し、定期的ないじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努めた。 ③不登校児童や問題行動の見られる児童への対応について全職員で共通理解をして、組織的な対応を図った。	1	8	5	0	あいさつができない実態がある。何らかの手立てが必要	あいさつはもっとできるはず。あいさつを徹底させるにはもっと手立てを講じる必要あり。区のカウンセラー・SSW・専任の先生と協力しながら対応できた。いじめ対策防止会議がきちんと機能している。高学年になるにつれてあいさつができない。「組織的に支援」が理想ではあるが、今年は職員が少なく、各個人がそれぞれの場所で奮闘した感じが強い。
担当	人権・児童指導			4	11	1	0		
特別支援教育		特別支援を必要としている児童に、組織として対応できるようにする。	①特別支援コーディネーターを中心とした組織的な学習支援を行います。 ②校舎内外を落ち着いた雰囲気のある環境に整備します。 ③就学前から、卒業後までを見通した相談体制の確立と子ども青少年局、健康福祉局など、外部組織との連携による切れ目のない支援を行います。	0	14	2	0		
担当	特別支援委員会			1	13	2	0		
地域連携		地域を愛し、地域に愛される子どもたちを育てる。地域から見える学校づくりを行う。	①地域学校協働活動本部を設置し、「六つ西支援ボランティア」を募集し、地域コーディネーターを中心とした持続可能な支援体制を検討した。 ②学校便りや学校ホームページから、学校での取り組みを発信した。 ③横浜南養護学校との授業交流等を行い、自分たちとは異なる教育現場を知り、様々な人とのかわり方の視野を広げた。 ④地域清掃や地域防災訓練など、様々な地域での活動に積極的に参加し、地域のために貢献する児童を育てた。	1	10	5	0	地域防災訓練への参加体制を検討	教育目標達成のためにどんなボランティアがあると児童に効果的な支援指導ができるかを全職員で共通理解し、学校が必要とするボランティアを地域に要請できるようにする。南養護学校の方が来校されることはあったが、こちらから行く意識は低かった。ボランティアの有無でクラスの中で支援の格差が生まれるのが懸念される。学習支援以外のボランティアがほしい。（マラソンコース見守り・農作業手伝いなど）地域防災訓練に児童が参加が少ない。
担当	地域連携			7	8	1	0		
いじめへの対応		子どもたち一人一人が安心して学校生活を送り、受け入れられていると実感できる環境を全職員で作上げていく。また、道徳の時間や人権教育の充実を図る。	①いじめの組織的対応の確立を目指し、定期的ないじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努めた。 ②いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりに努めた。 ③いじめが発覚した際は、すぐに校長が「いじめ対応委員会」を開催し、必要に応じてSSW、市教委にも入っていたき解決に全力を傾けた。	5	11	0	0		
担当	いじめ防止対策委員会			4	11	1	0		
人材育成・組織運営		全教職員が学び続け、力量を向上することができるよう、また、よりよい改善がしていけるように、組織作りを形成する。	①六つ西改善プロジェクト(兼衛生委員会)を設置し、六つ川西小全体の環境改善を図った。 ②学校評価にICT機器を活用し、効率化を図り、短時間に集計、発信し、働き方改革に貢献した。 ③HP・メール配信の充実を図り、必要な情報を発信できるよう、六つ西地域学校協働活動本部、PTA実行委員会と連携し、よりよい情報発信のあり方を検討した。	2	10	4	0		
担当	教務			3	11	2	0		
				4	10	2	0		